



# 言語障害、しびれ感はありませんか？



国保成東病院 神経内科  
伊藤 彰一 医師 (非常勤)

## 今

年4月から国保成東病院に神経内科外来を開設いたしました。

神経内科が対象とする主な臓器は、脳、脊髄、末梢神経です。末梢神経とつながっている筋も対象となります。大ざっぱに言えば、脳神経外科の内科版が神経内科であると思っていただくと分かりやすいかもしれません。実際、神経内科ではなく脳神経内科と標記している病院もあります。日常的には、「神経が高ぶる」などと言うように、「神経を精神」の意味で用いることが多くありますが、この場合のような神経(精神)は神経内科の主な対象とはなりません。むしろ、精神科(精神神経科)や心

## そ

療内科の対象となります。

れでは、神経内科はどのような症状や疾患を対象としているのでしょうか。決して皆様に馴染みのない症状や疾患ばかりではありません。(下表※1、※2参照)

## 近

年の画像診断技術の進歩は著しく、国保

実際、頭痛を経験したことのある方は多いと思います。また、高齢化社会に伴って、もの忘れを訴える方が増えています。手や足などのしびれ感でお困りの方も多いでしょう。現在の世情を反映して、神経内科のニーズは徐々に増えてきているものと思います。

問合せ 国保成東病院  
地域医療連携室  
☎(82)25221

成東病院には日本でも有数の最先端MRI装置(高磁場MRI装置)があります。この装置を用いると、従来よりも精度の高いMRI画像を得ることが出来ます。しかし、全ての疾患でMRIの異常がみられるわけではありません。神経内科の診療では、MRIなどで異常が認められなくても、問診や神経診察によって病変部位を推定し、治療方針を決定します。日常生活動作に障害がある場合には、社会福祉サービスの利用などについての助言も行っています。

※1 神経内科が対象とする症状
頭痛 意識障害 認知機能障害(もの忘れ) 言語障害 しびれ感 運動麻痺 不随意運動(体が勝手に動く) 歩行障害 など

※2 神経内科が対象とする疾患
脳梗塞 片頭痛 緊張型頭痛 てんかん アルツハイマー病 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症 多発性硬化症 多発ニューロパチー 重症筋無力症 など

## シリーズ No.11 地域医療 Q&A

市民の皆さんからいただいた地域医療、救急医療についてのご質問を、シリーズでお知らせしています。

### 発熱の目安は38度以上

**【Q】**初めての子育てで、わからないことが多く、やっと2か月になりました。まだ、熱を出したことはありませんが、熱が出た場合は、何度くらいあったら医療機関へ連れていったほうがよいのですか。

**【A】**お子さんの場合に問題となる「発熱」は、38度以上をいいます。3か月未満の赤ちゃんの場合の発熱は、重い細菌感染症である可能性がありますので、38度以上あったら早めに医療機関を受診したほうがよいでしょう。

また、発熱だけではなく、他の症状も気をつけてください。水分が十分に取れなくておしっこが出ない、嘔吐が続く、顔色が悪い、元気がなくなったりしている、意識がはっきりしない、あるいはけいれんを起こしてしまった場合などにも、早めに医療機関を受診しましょう。

(千葉県小児科医会発行の子どもの急病ガイドブック参照)

